

こども学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1年	21	幼児と環境
1年	45	基礎演習Ⅰ
2年	82	基礎演習Ⅱ

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-BSN-01				
	●				●					
科目名	幼児と環境				単位認定者	小野瀬 剛志 田中 公一		試験 (レポート)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	幼児の発達における環境の重要性について学ぶ。幼児の発達にとって、自然環境、社会環境、人的環境、物的環境がもつ意味を理解し、よりよい環境とは何かについて体験や知識の獲得を通して理解を深める。また、現代的課題としての幼児教育と環境の関係性について理解を深める。									
到達目標	1 幼児の発達における環境の重要性を理解する。 2 自らの体験を通して、幼児の発達にとって適切な環境とは何かを考え、伝えられるようになる。									
学修者への期待等	この授業は講義形式で行う授業だけでなく、実際の体験をもとに、自らの考えをまとめ、発表する内容が含まれているので、積極的な授業参加をお願いします。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	オリエンテーション（授業概要の説明、人間発達における4つの環境）							小野瀬 剛志		
2	環境と子どもの発達（人間の成長は、素質か、環境か？）【遠隔（オンデマンド）】				人間の発達にとってより重要な要素は素質か環境かを、ピアニストなどを例に考え、まとめてくる（概ね1時間）			小野瀬 剛志		
3	人的環境と「心」の発達【遠隔（オンデマンド）】							小野瀬 剛志		
4	現代の生活環境と保育①（日本の家族の変化）【遠隔（オンデマンド）】				少子化の要因について、家族の視点から考えてくる（概ね1時間）			小野瀬 剛志		
5	現代の生活環境と保育②（自然、社会環境の変化）【遠隔（オンデマンド）】							小野瀬 剛志		
6	現代の生活環境と保育③（「持続可能な社会」と幼児教育）【遠隔（オンデマンド）】				「持続可能な開発のための教育（ESD）」について、ユネスコのHP等を参考にまとめてくる（概ね1時間）			小野瀬 剛志		
7	身近な環境を利用した保育計画の考え方							小野瀬 剛志		
8	保育計画の準備							小野瀬 剛志 田中 公一		
9	身近な施設と保育①（植物園見学）				仙台市周辺の野草について調べてくる（概ね1時間）			小野瀬 剛志 田中 公一		
10	植物（園）と保育（植物園振り返り：グループワーク）							小野瀬 剛志 田中 公一		
11	身近な施設と保育②（動物園見学）				幼児を動物園に連れていく意義についてまとめてくる（概ね1時間）			小野瀬 剛志 田中 公一		
12	動物（園）と保育（動物園振り返り：グループワーク）							小野瀬 剛志 田中 公一		
13	身近な施設と保育③（公園）				公園での遊びを考えてくる（概ね1時間）			Aクラス：小野瀬剛志 Bクラス：田中公一		
14	身近な環境と子どもの発達（公園体験の振り返り：グループワーク）【遠隔（オンライン）】							小野瀬 剛志		
15	総括（人的環境としての保育者）				これまでの授業から「人的環境としての保育者」の役割についてまとめてくる（概ね1時間）			小野瀬 剛志		
教科書	「持続可能な社会をつくる幼児期のESD 論—子どもと環境—」降旗信一・菊池稔編著、人言洞									
参考文献	適宜紹介する									
備考	7・8・9・10・13・14回目は2クラスに分けて実施し、各教員が2クラス担当するが、13回目は各教員が1クラスずつ担当する。 ただし、状況によっては4クラスに分けて実施する場合もあり、その際は各教員が2クラスずつ担当する。 授業内で課した課題については、後日コメント等を付して返却する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

## 科目ナンバリング

CS-2-SEM-01

学修成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
			●	●						
科目名	基礎演習 I				単位 認定者	鈴木純子 小野瀬剛志 堀之内敏恵 菅原弘 早坂正年 鈴木享之 田中公一 田宮希砂 中曽根裕 平田修三		評価の方法	授業内課題	70 %
									受講態度	30 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
				授業形態	演習	授業時間数	60 時間			
						授業回数	30 回			
授業の概要	初学者が幼児教育を学ぶにあたって必要とされる基礎力の養成を行う。大学生活への導入、大学教育の意義と目的に始まり、資料検索等の情報収集の方法、文章の読み方・書き方（文章表現力）、キャリア形成について、学外実習の心得等の内容を取り扱う。学習目的遂行のために設定した課題について、探究的に学習し、課題の解決を目指す。									
到達目標	1 課題を発見し、それについて論理的に考え、解決を図るための基礎的能力を身につける。 2 資料収集、文章構成力、発表力など自主学修を行う上で必要な能力を獲得する。 3 次年度のゼミ学修（基礎演習Ⅱ）に向けて、基礎的な知識や方法を学ぶ。									
学修者への期待等	自主的な学びを中心にした科目ですので、自ら行動することを心がけてください。									
回	授業計画					準備学修				
1	【全体：講義】 人間関係力向上に向けてⅠ（前期授業の目的と内容・授業の進行方法）									
2	【全体：フィールドワーク】 人間関係力向上に向けてⅡ（コミュニケーションの実践）					事前にコミュニケーションを図る上での留意点について調べておく（概ね1時間）				
3	【全体：講義】 資料収集の方法・レポートの作成方法・社会福祉系施設の理解					事前に図書室の利用方法やパソコンを使った資料検索方法について確認しておく（概ね1時間）				
4	【全体：講義】 環境に応じた保育の実践Ⅰ（概要説明）									
5	【全体：フィールドワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅱ（活動場所見学）					事前に現地への交通手段について確認しておく（概ね30分）				
6	【全体：グループワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅲ（目標立案）					事前に現地見学の成果を整理しておく（概ね1時間）				
7	【全体：グループワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅳ（計画立案）					事前に立案した目標について整理しておく（概ね30分）				
8	【全体：グループワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅴ（準備物検討）					事前に立案した計画について整理しておく（概ね30分）				
9	【全体：グループワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅵ（準備物製作）					事前に準備物について整理しておく（概ね30分）				
10	【全体：グループワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅶ（準備物確認）					事前に準備物の製作を進めておく（概ね1時間）				
11	【全体：フィールドワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅷ（保育環境の理解）					事前に保育環境について理解を深めておく（概ね1時間）				
12	【全体：フィールドワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅸ（保育の実践）					事前に保育実践のポイントについて理解を深めておく（概ね1時間）				
13	【ゼミごと：グループワーク・ディスカッション】 環境に応じた保育の実践Ⅹ（反省と課題）					事前にフィールドワークの成果を整理しておく（概ね1時間）				
14	【ゼミごと：グループワーク・ディスカッション】 環境に応じた保育の実践Ⅺ（報告書作成）					事前にフィールドワークの反省と課題について整理しておく（概ね1時間）				
15	【ゼミごと：グループワーク・ディスカッション】 前期の振り返り					事前に前期の反省点や課題をまとめておく（概ね1時間）				

回	授業計画	準備学修
16	【全体：講義】 後期授業の目的と内容・レジュメの作成方法	
17	【ゼミごと：グループワーク】 課題の設定	興味のある課題や著作について事前に調べておく（概ね1時間）
18	【ゼミごと：グループワーク】 文献検索	
19	【ゼミごと：グループワーク・ディスカッション】 講読演習Ⅰ（指名学生1～2名からの文献報告）	各自、指定された文献の該当箇所について熟読し、論点などを整理しておく（概ね1時間）
20	【ゼミごと：グループワーク・ディスカッション】 講読演習Ⅱ（指名学生1～2名からの文献報告）	各自、指定された文献の該当箇所について熟読し、論点などを整理しておく（概ね1時間）
21	【ゼミごと：グループワーク・ディスカッション】 講読演習Ⅲ（指名学生1～2名からの文献報告）	各自、指定された文献の該当箇所について熟読し、論点などを整理しておく（概ね1時間）
22	【ゼミごと：グループワーク・ディスカッション】 講読演習Ⅳ（指名学生1～2名からの文献報告）	各自、指定された文献の該当箇所について熟読し、論点などを整理しておく（概ね1時間）
23	【ゼミごと：グループワーク・ディスカッション】 講読演習Ⅴ（指名学生1～2名からの文献報告）	各自、指定された文献の該当箇所について熟読し、論点などを整理しておく（概ね1時間）
24	【ゼミごと：グループワーク・ディスカッション】 講読演習Ⅵ（指名学生1～2名からの文献報告）	各自、指定された文献の該当箇所について熟読し、論点などを整理しておく（概ね1時間）
25	【ゼミごと：グループワーク・ディスカッション】 全体を通しての論点の整理	各自、これまでのレジュメや資料を整理しまとめておく（概ね1時間）
26	【ゼミごと：グループワーク・ディスカッション】 報告書の作成	各自、報告書作成に向けての役割を整理しておく（概ね30分）
27	次年度の学修準備Ⅰ（研究領域について）	配布資料を熟読し、次年度にとくに深めていきたい学修内容を整理しておく（概ね1時間）
28	次年度の学修準備Ⅱ（調べ学修）	
29	次年度の学修準備Ⅲ（学修成果について）	
30	【ゼミごと：グループワーク】 今後の学修の方向性を考える	
教科書	「大学1年生のための伝わるレポートの書き方」都築学 著、有斐閣 「福祉施設実習テキストブックー子ども・利用者理解からはじめる実践ー」栗山宜夫・小林徹 編著、建帛社	
参考文献	各ゼミで適宜選定。	
備考	講読演習の報告書などは、内容確認後にフィードバックしますので、自己学修に活用してください。 各回単位認定者で授業を担当しますが、以下教員の担当回は次の通りです。 鈴木純子：【全体】	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
			●	●	

科目ナンバリング
CS-2-SEM-02

科目名	基礎演習Ⅱ				単位 認定者	小野瀬 剛志		評価の方法	授業内課題	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	各担当教員の支援指導の下で、学生が実習等の体験の中で直面した問題を自らの課題と捉え、その課題解決のために探究を行う。問題を論理的に整理し、教員と学生の間でグループディスカッションを行い、新聞・諸論文・紙芝居等の様々な形式でのプレゼンテーションを通して、より実践的な知識や技術の獲得及び卒業後のキャリア形成能力の養成を目指す。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然と人間（社会）のかかわりを理解する。</li> <li>・子どもたちに対する環境教育の重要性を理解し、実践する力を身につける。</li> </ul>									
学修者への期待等	基礎演習Ⅱは自分たちで課題を見つけ、それについて調べ、解決策を探ることが基本です。常に自分から学ぶという姿勢で講義に臨んでください。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンス（授業計画・受講上の注意などの説明）と課題探求への導入									
2	体験学習①（春の自然環境）									
3	自然と社会の理解①（人間と自然のかかわり）					人間と自然の共生について調べてくる。（概ね1時間）				
4	自然と社会の理解②（社会と自然のかかわり）					現代社会のあり方と環境問題の関係について調べてくる。（概ね1時間）				
5	自然と社会の理解③（社会運動と教育）					環境保護などの社会運動と教育の関係について考えてくる。（概ね1時間）				
6	自然と社会の理解④（グループディスカッション）									
7	環境教育の実践①（遊びの体験）									
8	環境教育の実践②（指導計画の作成）					環境教育に関連した遊びを計画してくる。（概ね1時間）				
9	環境教育の実践③（実践）									
10	環境教育の実践④（反省と評価）									
11	環境教育の実践⑤（グループディスカッション）									
12	体験学習②（夏の自然環境）									
13	中間まとめ①（人間・社会と自然の関係について）					これまで学んだ内容から人間・社会のあり方と環境問題の関係について整理してくる。（概ね1時間）				
14	中間まとめ②（遊びを通じた環境教育）									
15	前期のふり返りと後期への展望									

回	授業計画	準備学修
16	アクティブ・ラーニング①（企画）	子ども、もしくは親子を対象にしたゲームを考えてくる。（概ね1時間）
17	アクティブ・ラーニング②（教材作成）	
18	アクティブ・ラーニング③（模擬実践）	
19	アクティブ・ラーニング④（企画の見直し）	模擬実践の反省点と改善案をまとめてくる。（概ね1時間）
20	アクティブ・ラーニング⑤（最終確認・事前準備）	
21	アクティブ・ラーニング⑥（実践）	
22	報告書の作成（実践）①（実践のふり返し）	
23	報告書の作成（実践）②（今後の課題）	
24	発表用レジュメの作成と提出	
25	発表準備	
26	学科内研究発表会①第1グループの研究成果報告	第1グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくる。（概ね1時間）
27	学科内研究発表会②第2グループの研究成果報告	第2グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくる。（概ね1時間）
28	学科内研究発表会③第3グループの研究成果報告	第3グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくる。（概ね1時間）
29	学科内研究発表会④第4グループの研究成果報告	第4グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくる。（概ね1時間）
30	総括：研究活動の反省と課題	
<b>教科書</b>	特に指定しない。	
<b>参考文献</b>	適宜紹介する。	
<b>備考</b>	授業課題については各授業内でコメントし、学科内発表については最終回でコメントする。 第5回目には早川昌子先生に講話をしていただきます。	

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）**

--